



Fukutsu city press



11

2013
/1
vol. 106

未来へつなごう 私たちの宝

新原・奴山古墳群を 世界遺産に

古代沖ノ島では、東アジアとの交流の成就、航海の安全を願う祭祀が行われていました。祭祀跡からは約8万点もの国宝が出土。傑出した豪族でなければ持ち得ない高価な遺物は、国家的祭祀の証拠です。この祭祀を行っていたのが宗像の君であり、古墳群は宗像の君の存在を唯一証明するもので、「新原・奴山古墳群」はそれを代表するものです。

宗像の君は、海との関わりを大切にし、海北道中（宗像から朝鮮半島への古代海路）・大島が見え、天然の良港であった勝浦潟・在自潟が見える位置に古墳群を築造したものです。

世界遺産候補として、この古墳群の価値を物語る時、海との関わり無しには語れないことから、古墳群を取り巻く風景や、玄界灘・大島を臨む風景なども、古墳群と一緒に守っていかねばなりません。